



おっぱい
女子

COCOA HOLIC

PRESENTS

ORIGINAL BOOK

R-18
Adult Only



【前回までのあらすじ】

時に昭和十二年。英国帰りの物理学者である青年・和久井耀一郎は、二年余りにおよぶ異人の少女・繭との共同生活の思い出を胸に、とある計画を実行しようと彼女を屋敷に残したまま、海外へと旅立っていった。



◆和久井耀一郎

若手の物理学者。

成金の息子という地位をいいことに、どこの研究室に所属するでもなく、四六時中自室で勝手気ままな研究に明け暮れていた。

ミサンスロビスト
厭人主義を気取っているが、単に性根がひねくれているだけである。



◆繭

耀一郎専属の使用人。

旅立っていった耀一郎がいつ帰ってきてもいいように、いつまでも屋敷を守り待ち続けることを固く心に誓っていた。

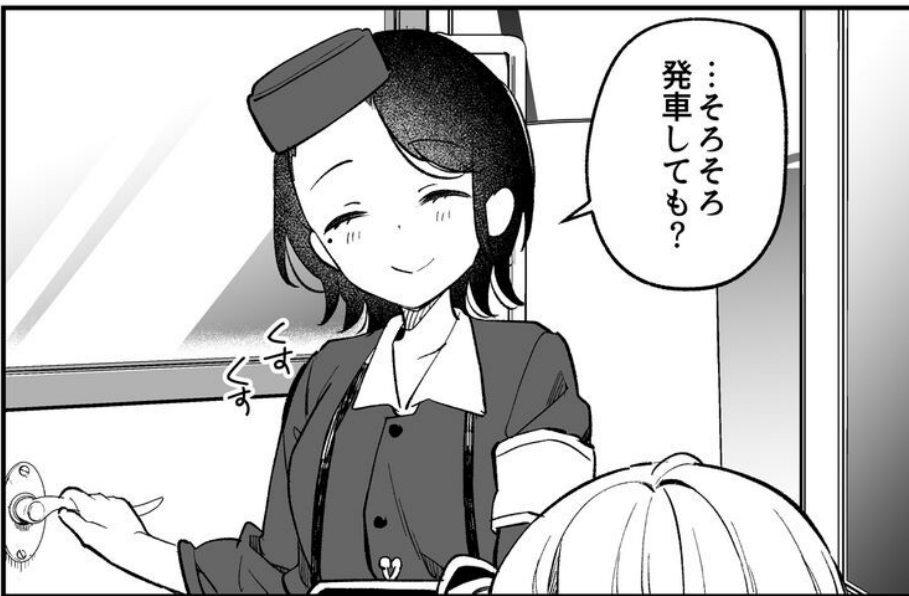
この作品はフィクションです。
登場人物・地名・団体名・本名・事件・世界観・メタ構造その他一切は
架空のものであり、実在のものとは関係ありません。

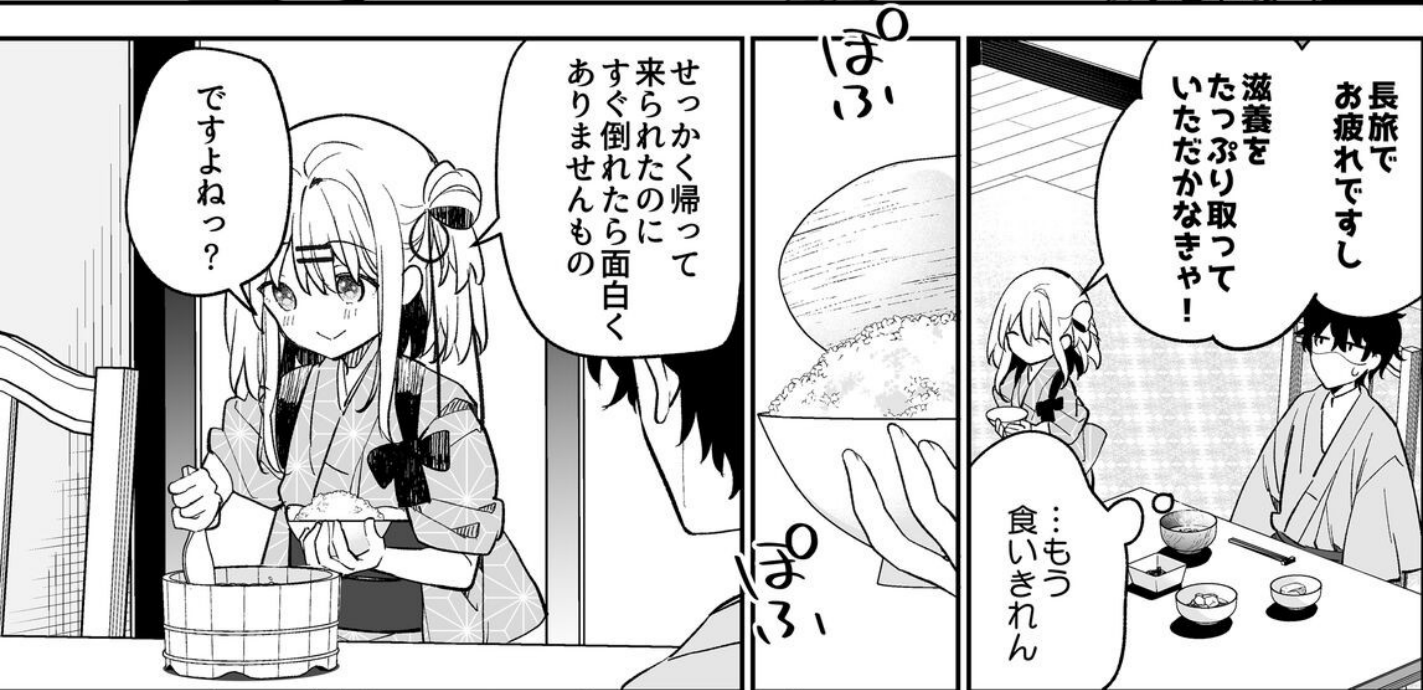
昭和十二年九月一



おかえり
なさいませっ

耀一郎さまっ







だから

ご心配なんて
なされなくても
いいんですよ



…いえいえ

待つ時間なりの
楽しみ方だって
ありましたし



お友達も時折
お茶を飲みに来て
くださったんです

二ヶ月や三ヶ月
繭はへいちやら
でしたよ?



—そうか

お前も大人に
なっただんな



そう…
なんですかね



ず、おとな…



あのっ…
繭はもう
ご馳走さま
なので
とりあえず
お風呂のご用意
してきます…ね？

イェッ…



アイツは
どうしたん
だろうか

あんなに
はしゃいでたのに
いきなりしお
らしくなってる...



なんだよ
寝巻で珍しい...

それとも
今日くらい
こっちで休むか？

積もる話も
あるだろうし
付き合うぞ

いあっ
いあっ

その...



...入りますね

ああ



アハハ



いや
頼むって
どういう…



?



不束者ですが
今夜はよろしく
お願いします

ああ
よろしく頼む



どうい
う見た
それほ

何を脱ぎ
はじめて
るんだ

いや
待って
待って



!?



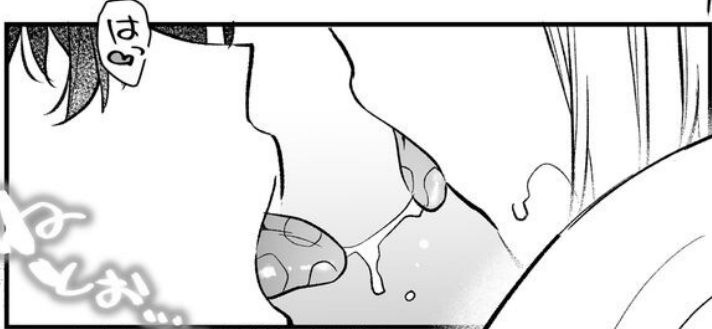


繭…ずっと
待ちぼうけ
だったんですよ？

本当のこと
言うと
さみしくって

もう二度と
帰ってこないんじゃ
ないかって思う
時もあった





ですから
今回くらいは

繭のわがまま

聞いて
ください





どこに挿れたら
気持ちよく
なっちゃうのか
…とか

姐さま方から
教わったんです



男の人の
身体のしくみとか

本当のこと言えば
繭…知って
るんですよ？



痛い思いや
怖い思いをしない
ように…って

いつでも
お座敷に
出られるように



そりゃ
思った以上に
大人だな

ほくなんかより
よっぽど

んっ♡
んっ♡



これが
耀一郎さまの

あつたかい
…ですわね



さあ

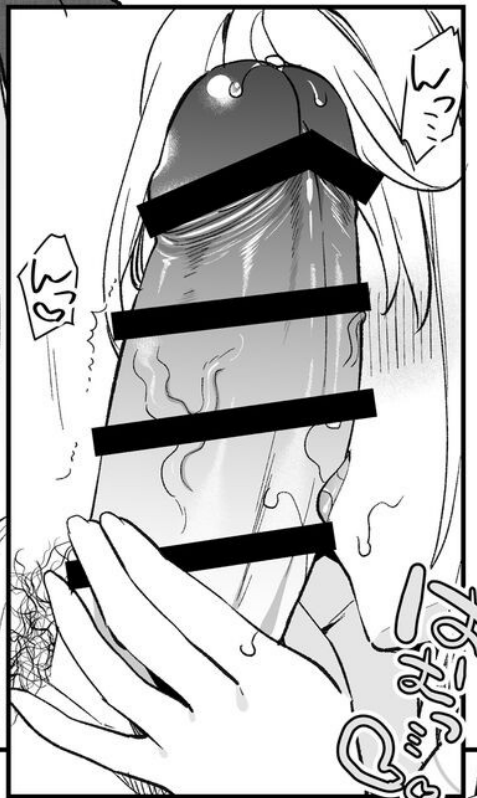
触るたびに
びくびく
震えて…



わ
どんどんおっきく
なってる！

ヌイ姐さまの
おっしやった通り！
おっ

そんなに
盛り上がる
モノか…？



いいふか？
繭はずっと
待つれらん
れふよ？

こっひれも
お役に
立てるひを
わかっておん...

馬鹿つ
啜えながら
しゃべるな！

こういつのには
めっきり疎いが
それでもわかる

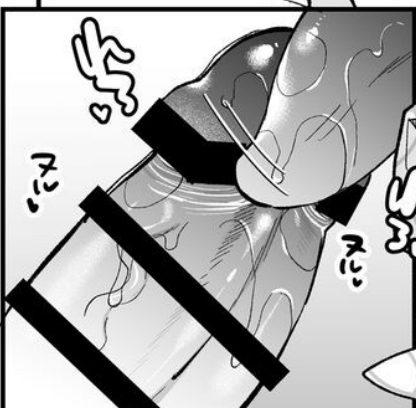
確かに繭は
その手の知識を
持つのだろうが

一方そつだとして
実際の扱いに
慣れてはいない

舌使いも吸い付きも
おそろくは
粗雑なのだ

不器用で無遠慮で
未完成で未発達で

考えるほどに
倒錯していて…





おしんそれが
逆に...!!



おしん...!!



耀一郎さまの
そんなお顔♡

...初めて
見ちゃいました



おしん...!!



おしん...!!



あのお...

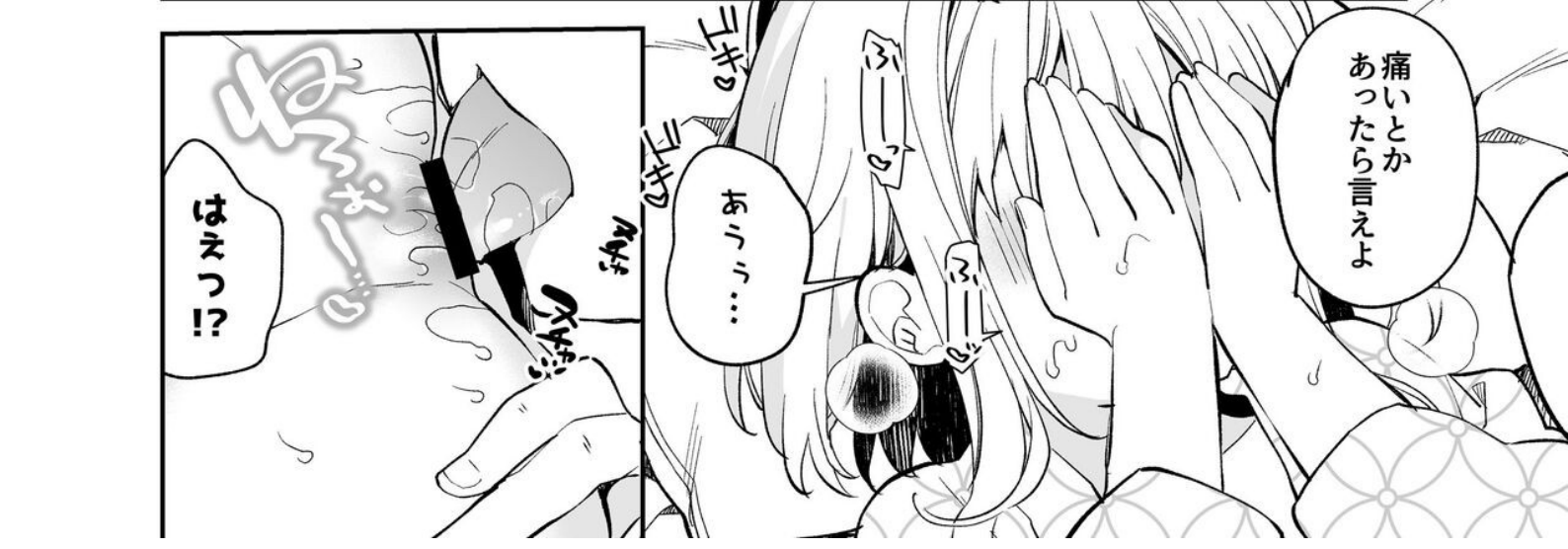
さすがに
破廉恥
すぎませんか？

こんな
格好...!

でも
こうした方が
よく見える

慣れんものを
扱うにはまず
観察が必要だろ？

そう...
です
けどあ...!



痛いとか
あったら言えよ

あ...!

はえっ!?

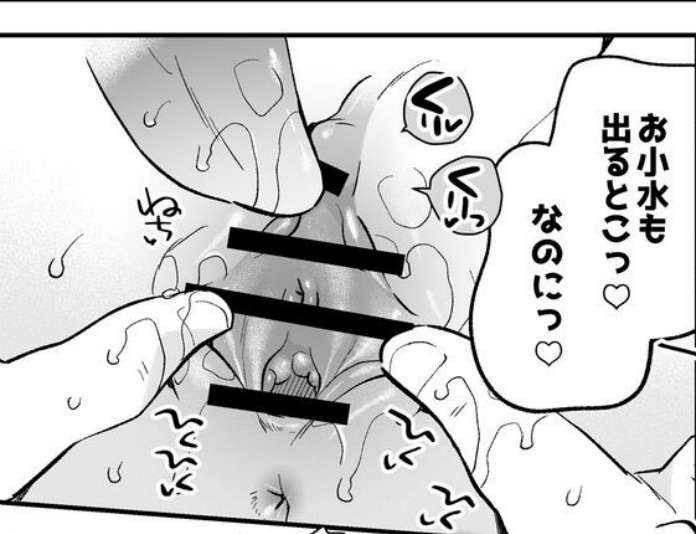


何ですか…
それっ♡
あつたかいの
ぬるぬるって…!?

…!!

びしょ

びしょ
びしょ
びしょ



お小水も
出るよ♡♡

なの♡♡

いや…ただ
舐めてる
ただけど

!?



そんな…

…

汚いっ♡
ですよっ♡

そんなっ♡

中まで入って
きちやっ…♡

ゴッゴッ





へんなの
本当は
痛いとか
ちよっと
怖かった
だけに

全然
何もなくて
気持ちいいだけ



そんなことより
そろそろ
動くぞ...!

はっ...!
ひっ...!



はじめまして
つつ言っつより
おかえりなさい
っご感じ♡

なんだよ
それ



あのっ
むしろお嫌
じゃなければ

思いつき
乱暴なのが…
いいかなって…!

乱暴?



なんかこうっ
男の人のための
道具みたい
に一方的に滅茶苦茶に
されるのってっ

きちんと身体で
お役に立てる
感じがしてっ
あんな
うさかなって…!



お前その歳で
しれっと
相当なことを…

だって…!
正直な
気持ち…
ですしっ♡



あんなに
あんなに
あんなに

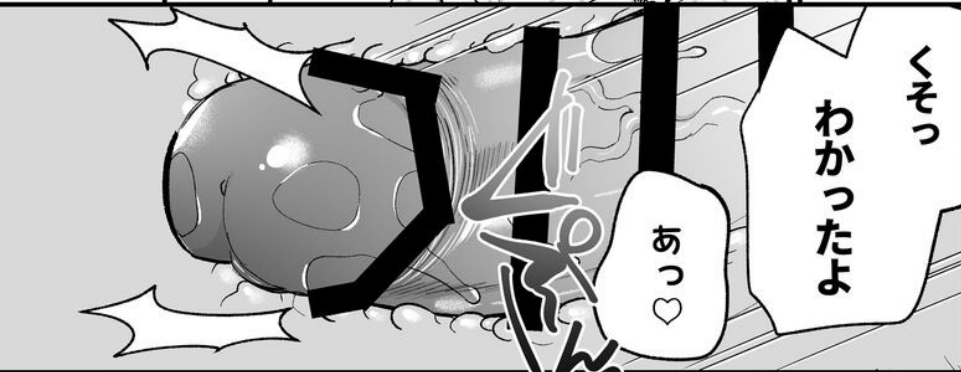
…お嫌いですか？
破廉恥すぎる子は
糺一郎さま

う……



くそっ
わかったよ

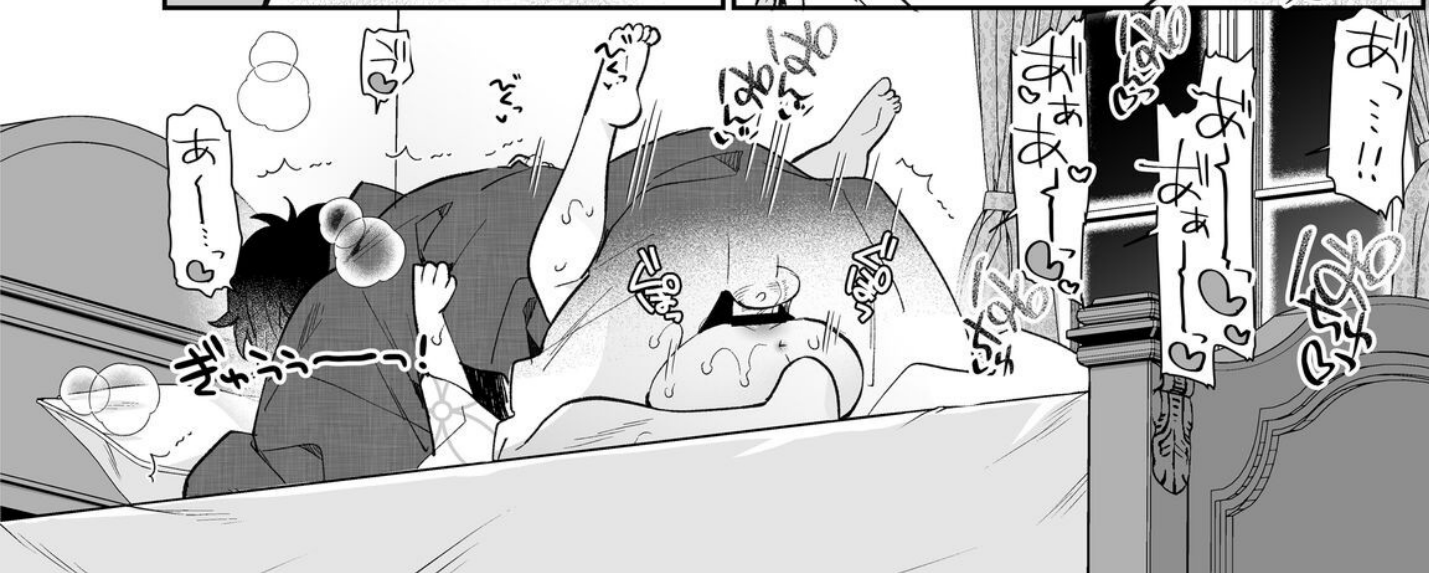
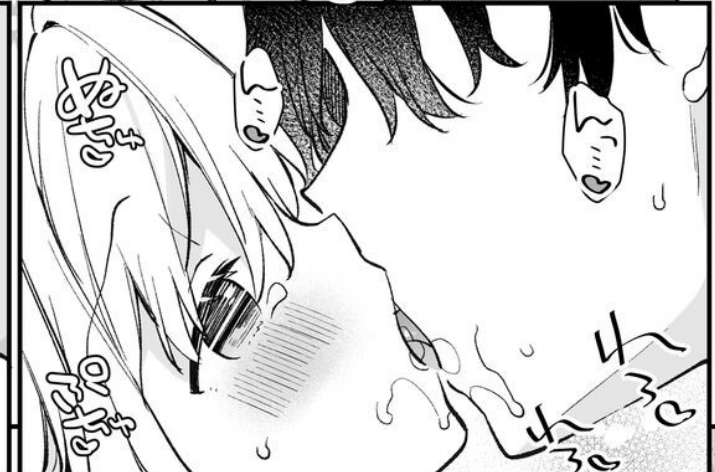
あっ♡

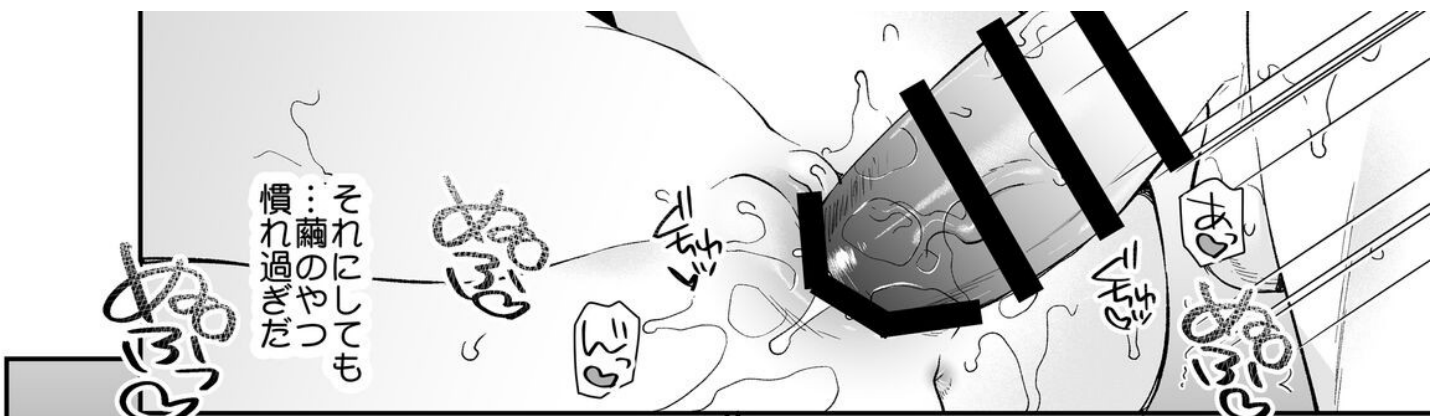


望み通りに
してやるっ

どうなっても
知らんぞっ

あんなに
あんなに
あんなに





それにしても
…繭のやつ
慣れ過ぎだ



もしかして
ほくだけが今まで
散々躊躇して
ただで

おしり前か
ひじり前か
うか...



初めての
はずなのに

おめで
娼婦のような
性への無抵抗さ



ごちうにせよ
もう遠慮など
まったく必要ない



望み通り
最後までとことん
付き合っつてやる...

アッ...

アッ...

アッ...

アッ...

アッ...

アッ...

アッ...

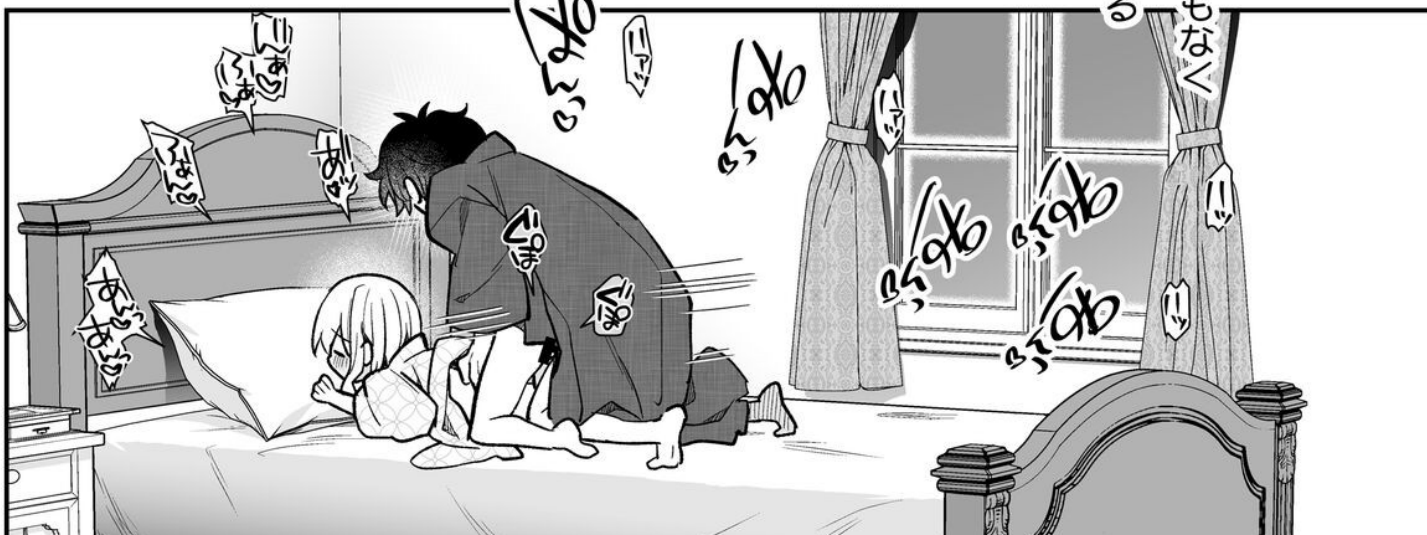
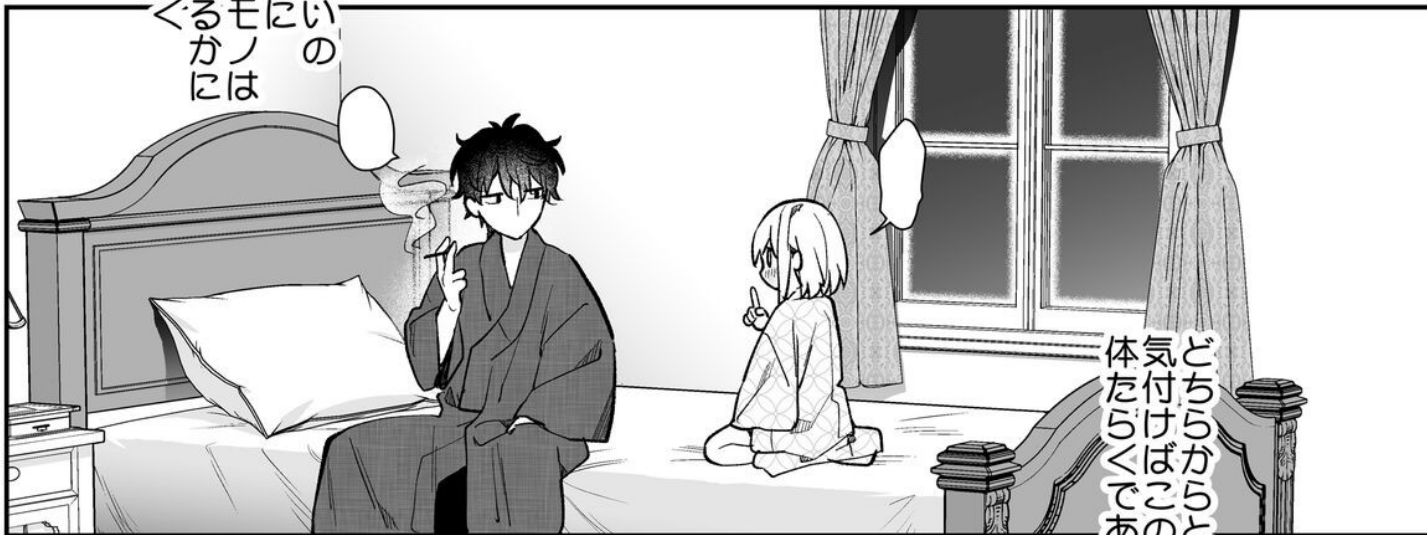
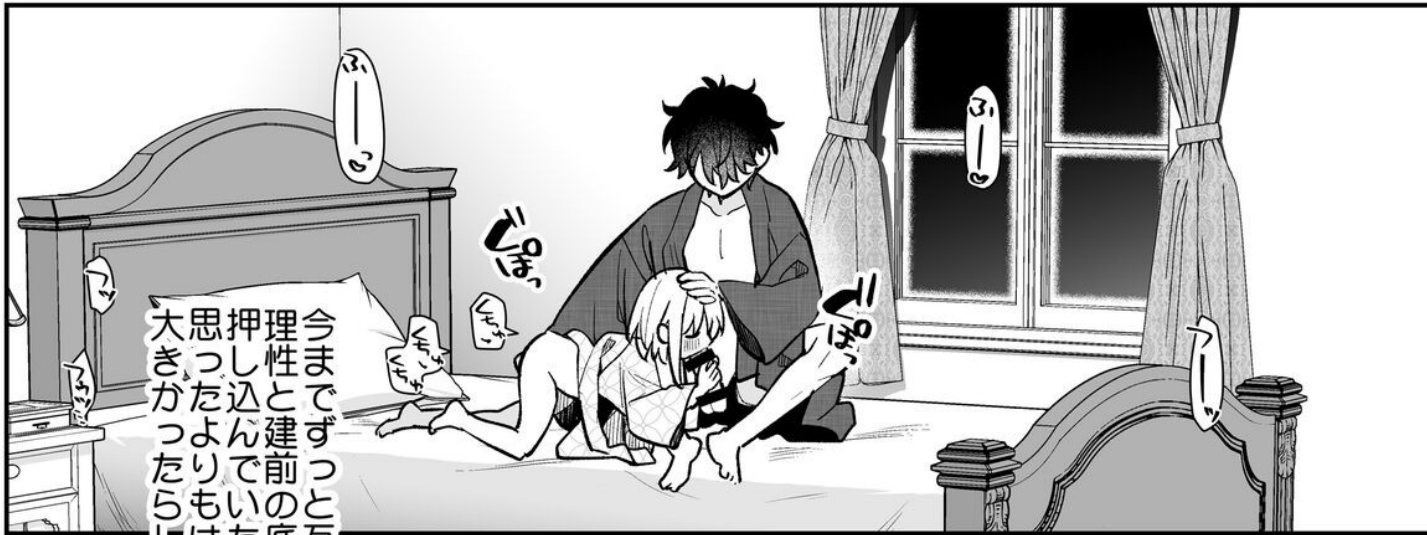
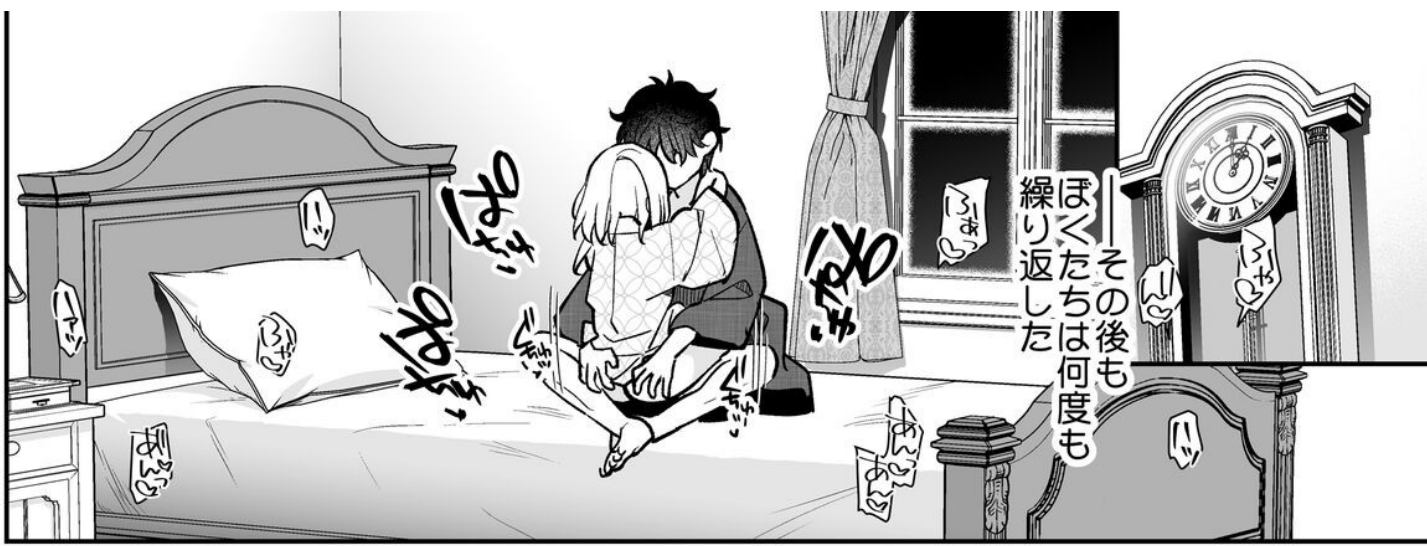


あは...
中で熱いの...
転がってます♡

やっぱり
へんな♡

アッ...

アッ...





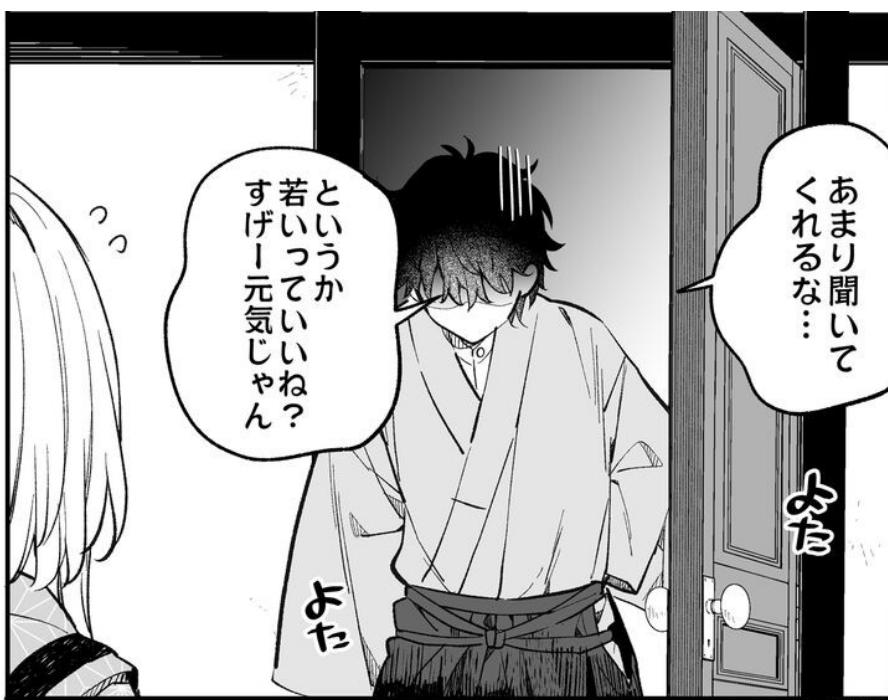
見た目に
不相応過ぎる
繭の乱れぶりを

「ほくはなぜか
すんなりと
受け入れていた



不思議な感覚だ

まるで何年も
前からこんな
関係でいたよう
な気がする



あまり聞いて
くれるな…

というか
若いっていいね？
すげー元気じゃん

よた

よた



はええっ？！
耀一郎さまっ
ひどい顔色
ですよおっ



…のす



学者に体力など
不純だとか
粹がっていたが
これからは
素直に身体を
動かして
いくべきだな…



はええ！？

あ…いや
そっちな
意味ではなく



その時は
それとなく言っ
ただけければ

いつでも
お付き合い
します…からね？

……？



「いつも通りの一日が始まる」



気怠さとともに目覚め愛すべき泥のような、珈琲を飲み下し

繭と過ごす平和な朝は緩やかに過ぎていく



あるべきように時間は流れ

歴史もまたあるべきように... 攻撃の序幕戦... 砲門を開く... 蔣介石、突如... 連敗に氣を腐ら



...科学者として失格の解答だな

...なあ 今日時間はあるか?







ガンマぶらすで一般版も連載してますので、よろしく
お願いします。単行本も出てます。



「おんなのこのまゆ 昭和式メイド閑話抄」公式ページ
<https://gammaplus.takeshobo.co.jp/manga/onnanokonomayu/>

……本当に長かったです。十年。この日を十年待ちましたよ。当時若く血気盛んだった私も、今やあなたと同じ歳か。感慨深いですね。

相対性理論を知らない人に説明する時に、かのアインシュタイン博士は「苦しい時間はゆっくり過ぎるけど、好きな女の子と一緒にいる時間はあっという間に感じるだろう？ それ相対性というものさ」って言ったそうですけど、本当ですね。

私にとって、この相対的時間は本当に苦しかったです。あなたにとって、この二年間——彼女と苦楽を共にした二年間は、どう感じられましたか？

ねえ、和久井耀一郎さん——いいえ。
『ジョシユア・バートン・ハミルトン博士』。

——まあまあ。

そんなに食ってかからないでくださいよ。まず、私の正体なんて誰だっていいじゃないですか。

『科学を志し、科学に殉じるものならば誰だろうと構わないし、誰だろうとそれを名乗ってもよい。我らこそは名もなき科学者、ジョシユア・バートン・ハミルトン』。言い出しつべは、他ならないあなたはずです。

ああ……ですが、それは会話するにも不便ですね。便宜上、私のことはハミルトンとでも呼んでください。別に怪人二十面相でも、何でもいいんですけど。

私がこうやって日本からはるばる海を越え、満州は奉天のホテルまで来て、これから鉄道でソビエト国境を目指す予定のお忙しいあなたに面会を望んだ理由は他にもありません。

あなたが今まさに進めようとしている、その青臭くてくだらない計画を、キレイさっぱりこの場で完膚無きまでにバチコンとブツ潰してやるためですよ。

——はい、それでは本題です。
和久井耀一郎がジョシユア・ハミルトンの首謀者であることを世界中に写真付きで公表されなくなったら、このまま大人しく尻尾巻いて可愛い金髪メイドさんが待つてるあったかいおうちに帰りやがってください。

以上、用件終わり。
……動機の方に関しては、非常に多次元の広がりを持つ複雑さははらんでまして、そこらへんはあまり関係ないので割愛させてもらってもいいですか？

因果関係のすべてをつまびらかに説明するにはこの余白は少なすぎるんです。流石にフェルマーの大定理ほど難解ではないですけど。

ちなみに私、あなたの計画が具体的にどんなものなのかも把握してますよ。ええ、もちろんあなたからしたら不思議に思えるでしょう。

そんなことはありえない！ ジョシユア・ハミルトンとしての手紙や論文には、あの計画の終着点については匂わせる程度すら書かなかったはずだ！ と、そう言いたい気持ちは理解します。

まあどうしても疑うと言うなら、別にこの場でどんな計画か言ったっていいんですけど、もがーもがー！

ああ！ わかりました！ やめておきましょう！
……確かに、少なくともこんな場所で口にすべきではない物騒なことですかね。どこでビッグ・ブラザーに見られているのか、わかったものじゃありませんし。

ですが、よく今のがカマかけの類じゃないってわかりましたよね？ 反応すごく早かったじゃないですか。
あ！ もしかして、あなたその人畜無害でヘタレそうな見た目に反して、普段からいたいけな婦女子の口を塞いでイケナイことするの慣れちゃった……あ、ごめんなさい言い過ぎました、こういうの昔からのクセみたいなもので、誓って冗談ですからそんな凹まないでくださいよ。ね？

——なるほど。
すこぶる非科学的で立場上認めたくない見解ではあるが、あるいは私は……未来人なのではないか、と？ でなければその余白に関するレトリックをすすんで用いるくせに、フェルマー「予想」のことを『定理』と間違うはずがない、と？

……まあ、そこに関しては黒秘というところで。本筋に関係ないのもありますし、こちらの事情的には、必要以上にパラドクスを発生させるわけにはいかないんですよ。こういう不可逆的なパラダイムシフトを伴う干渉を行う際には、いくら慎重になっても決してなり過ぎることはありません。量子の状態ベクトルと同じです。歴史もまた、常に不確定性をはらみ、確率分布として無数の状態がもつれたまま存在している——とでも表現すればいいのでしょうか。

カオス理論におけるバタフライ効果——いつだったか、『ハミルトンの手紙』の中で、大気変動を例にとって提示したことがありますよね？

ああ、実はアレ書いたの私です。昔学校で教わったことを思い出しながら書きました。

その他……たとえば不確定性原理なんてのは、あなたくらいの本職相手には言わずもがなでしょう。

とにかく、このまま事態を放っておいたところで、この『昭和十二年九月の満州・奉天ヤマトホテル』に可能性が収束するという保障は一切なかったんです。

これではいくら賭けに出るにしても、あまりにも分が悪すぎます。神なんかはサイコロ口振らせる権利を与えちゃいけないんです。

——要するに。
私はこの場に至るまでに余計な不確定要素をあらかじめ、できる限り取り除いておく必要があったんです。あなたとこうやって対面してお話できる状態を、より高い確度で実現するために。

そのために私は十年間、できる限りのことをしました。

……ええ。一応こう見えて、今回の件に関してはいろいろ計算ずくではあるんですよ。
匿名科学者集団の一員として紛れ込み、平和の実現手段としての核理論の発達に関する議論をあえて過熱させるように誘導してきました。

その一方で、色んな協力者の目を通してあなたたちお二人の生活をずと気にかけて、観察したりもしました。横須賀の街から山手に上がる路線に勤めるバス・ガール、吉原にあるオトナのお店で働く女性、ハミルトン宛の手紙を届ける便利屋の少年など……見覚えや聞き覚え、ありますよね？

その誰にも顔のきく、とある人物の協力を早期に得られたのは私にとって本当に幸運でした。

……はい。

お察しの通り、元和久井家使用人頭にして、今は純喫茶ブルームーンのオーナー。

小田沼正越さんこと、加藤清さんです。

話せる限りの訳を話して畳にゴンゴン頭突きしたら、二つ返事で引き受けてくれましたよ。

あなたのお母さま、鹿狩緋奈さんに思うところもあったのでしようが、それにしても本当に柔軟な考え方を持つ勘の鋭い方で助かりました。

流石は元刑事さんといったところでしょうか。

……？
ならば、まさかアイツらもお前の差し金かって？
ツヅリ？ ホタル？

えっと、小田沼さんのお店の？
いえ……知りません。

……あ、いえ。

それは……きつといい傾向だと思えます。
既に歴史のもつれのようなものが顕在化して、色々と互いの認知があいまいになり始めているのかもしれない。ここははっきりと、「私視点での認知では、その方々の存在すらも把握していない」と言っておきましょう。ともかく、これで私の用件は終わりです。

これを受けあなたのとれる選択肢は、たったひとつ。いきなり現れて認知顔でデウスエクスマキナぶつて長々と語りだす卑怯者の私の脅しに屈して、このままおめおめと二度目の挫折を経験し、物理学者として何者にもなれないまま実家に舞い戻り、自衛するための資源もろくろく残ってないくせに無駄にデカくなってしまったせいで損切りもできず、兵士にまともなご飯を食べさせてあげないと国体護持すら危ういからもう引くに引けなくなつて半ばやけっぱちでデイストピアみたいな社会を作りながら、勝ち目の見えない、たとえ勝つたとしても穏やかな未来ひとつ見えない、そんなどうしようもない戦争にあの国が突き進みつつある中。
たった一人の大好きな女の子を守るために、逃げたり隠れたり、そうやって必死こいて生き残つて。
あの子だけのヒーローになるしかないんです。
——理解していただけましたか？

あ、それと。

ちょっとだけ、私情ぶつけちゃっていいですか。
こればかりは、本当にあなたは悪くないんですけど、なんというか、ケジメとして八つ当たりしておかなぎやならないっていうか……なので、ちょっと目をつぶって菌ア食いしぼってもらっていいですか。

……あ、安心してください。
グーじゃなくてパーで殴るので。

*

*

——まったく。

……何が戦争を止める、ですか。

何が……ジョシユア・ハミルトンですか、何が科学の勝利ですか！ ふざけないでください！

ちょっと天才だからって、世界を意のままに操らないでください！ カッコつけて簡単に自分を犠牲にしたった一人の女の子を救うとか、そんなひとりよがりの

ヒロイズムとかやめてください！ めちゃくちゃはた迷惑です！

そもそも……あなたが自分を犠牲にしちゃった時点で、ちっともあの子は救われてなんかいないんだ！

一緒にいた方が幸せに決まってるじゃん！
手とか繋いだ方が幸せに決まってるじゃん！
どんなにひどい目にあつたって！
見た目が普通じゃないからって、白い目で見られたって！

そんなやつアンタがブン殴つてやればいだけじゃあ！ それがダメならあの子の手を引いて逃げてもいい！ 目を塞いで逸らしてあげてもいい！

どれもこれも！ アンタがそこに居ないとできないことじゃあ！ 一緒に居ないのに守れるわけないじゃん！

ねえ……好きな人と離れ離れって、苦しいんだよ。たつた十年ほっちでっ、こんなにつらくて……長いのに、一生なんて放つておかれたら死んじやうよ！

切なくて苦しうって……そんなのどう考えたって地獄じゃあ、救われるわけないじゃんバカ野郎！

私だつてっ、ひぐっ……！
本当はっ、こんな大それたことっ、したくなかつたっ！

ただっ、大好きになつた人と一緒に同じ趣味を楽しんだりっ……！ ショッピングモールでデートしたりとかっ……、同じ布団で温め合つたりっ、とかっ……！ あ

とっ……ぐすっ、たまには自堕落にっ……えっちなことに溺れてみたりとかっ……。

そういうことばかり、していたかつたんだ！
だから私は戦つたんだ……いっばい頑張つたんだ！

私の好きを認めない社会って理不尽を、ジョシユア・ハミルトンっていう特異点をつ、ブツ潰すためにっ！
だから……私を『先生』につ、ぐすっ……もう一度、会わせて……！

……お願いだから報いてよ、和久井耀一郎お……！

*

*

……。

——あの。

今のは流石に、なんというか。すみません。
めちゃくちゃ理不尽だつたと思うんですが……怒らな

いでいてくれて、ありがとうございます。
暴力系ヒロインだつて長ゼリフヒス系ヒロインだつてたまにくらいは許容される、そんな世の中の方がいいじ

やないかとは常々思つてたんですけど、ずびっ……いざやってみると、私には合つてなかつたみたいで。

ふてぶてしくも元気なサブカル系純情美少女だつてのがやっぱり性にあつてますね。いやもうとつとくに少女なんて歳じゃないんですけど。

はい？ なんか半透明じみてきてるって？
……ああ。大丈夫。多分、これが成功なんです。きつとうまくいきます。なんだか私視点では、現実の

ゆらぎが体感すらできるようになってきました。
このまま、歴史はきつといい感じに収束します。いくつもの可能性の糸がより合つていくように、交換した菌車

が噛み合うように、新しい確率分布が重なつていく。だから、もういいんです。
あんまり優しく頭を撫でられると、ダメなんです。

……ほら、私。
そちらの世界の人よりも、ちょっとだけ耳がフサフサ

しているの。
……

*

*

「……狐耳、だつたな」
ほくは、三本目の煙草に火を付けた。
休日屋下がりのホテルロビーは商談にいそむ連中

でこつた返しており、今まさにひとりの人間が光に包まれて消滅したことなど、誰も気にしていないようだつた。
ひとり取り残されたほくは、腕時計に目をやる。

時間にして三十分。短くも嵐のような時間だつた。
終始理不尽で、勝手が過ぎる女だつた。

超現実的かつ非科学的な放言をまくし立て脅迫を行い、謂れない暴力にモノを言わせた拳句——ちなみにめちやくちや腰が入つていた——最後にボンネット帽を外し、

ほくを困惑させたところで勝手に消えてしまった。
まさに狐につままれた気分……いや、正確には「狐に

ピンタされた」気分、なのだろうか。
頬をさすつてみたが、まだヒリヒリと熱を帯びている。

「……はは。しょうもないな、こんな終わり方」
笑うしかない。実際、こんな余りにもしようもないこ

とで、確かにほくの計画にはすつぱりと、諦めがついてしまつたのだから。
ほくは煙草を最後までゆつくりと吸い終えると、手早

く荷物をまとめ、繭の待つ横須賀に帰ることにした。
——少しだけ、清々しい気分だつた。

—Joshua Burton Hamiltonとは何なのかって？

いわば我々の間に遅れてやってきた思春期、子どもじみた反抗の象徴さ。

誰が誰と仲がいいから、師弟だから、論文を読むとか、読まないとか。

あの時若かった私たちには、そういうのがウンザリだったんだ。

つまり"彼"は、あの有名なNicolas Bourbakiの良き理解者にして友人ということだ。

私も実際、過去に数回ほどJoshuaとしていささか風刺的な論文を書いたものさ。

……しかし、それにしても懐かしい話だ。

あの時の私たちはすべてが自由で、なんでもできる気がした。

あるいは"彼"ならば、〈科学者という概念〉ならば、あの未曾有の規模の大戦争をうまく終わらせ得たのかもしれないとすら思ったりもしたし、今でも時折思う。

だが現実にはWWIIは起こり、かの兵器は実際に"平和のために使われた"。

原理的には時間は不可逆だし、選ばれなかった運命を語るのには科学者としては落第だ。

だがそれでも、時折考えてしまうんだ。"彼"が忽然と姿を消さなかった、その先の世界を。

そうしてその度に、私はこう自分に問いかけざるをえない。

—我々科学者は本当に、あの戦争に勝利した側だったと言えるのだろうか？

Prof. Reynold Carrの証言

1961年 ニュージャージー州プリンストン、友人らを招いた茶会にて

COCOA HOLIC Presents,

"G.E.D" Episode-2'[integrated]

"THE SINGULARITY HAS DISAPPEARED."

in Sep, 1937



まゆアフター

Cocoa Holic #43

発行■ココアホリック/ユイザキカズヤ
発行日■2023. 12. 31

給■ユイザキカズヤ
話■rK

デザイン■柊椋さま

スペシャルサンクス■90izs。さま

[https://cocoaholic.fanbox.cc/
yuizaki@c-holic.main.jp](https://cocoaholic.fanbox.cc/yuizaki@c-holic.main.jp)

印刷■サングループ





Mayu after



**cocoa
holic**

by Yuizaki Kazuya,
since 2010